

● 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

長太郎の願ひ書には、自分も姉や姉弟と一緒に、**①** 父の身代わりになつて死にたいと、前の願ひ書と同じ手跡で書いてあつた。

取り調べ役は「まつ」と呼びかけた。しかしまつは呼ばれたのに気がつかなかった。いちが「お呼びになったのだよ。」と言つた時、まつは初めておそろおそろうなだれていた頭を上げて、縁側の上の役人を見た。

「おまえは姉と一緒に死にたいのだな。」と、取り調べ役が問うた。
 まつは「はい。」と言つてうなずいた。

次に取り調べ役は「長太郎。」と呼びかけた。
 長太郎はすぐに「はい。」と言つた。

「おまえは書き付けに**②** 書いてあるとおりに、兄弟一緒に死にたいのじゃな。」

「みんな死にますのに、私が一人生きていたくはありません。」と、長太郎ははつきり答えた。
 「とく。」と取り調べ役が呼んだ。とくは姉や兄が順序に呼ばれたので、今度は自分が呼ばれたのだと気がついた。そしてただ目を見張つて役人の顔を仰ぎ見た。

「おまえも死んでもいいのか。」
 とくは黙つて顔を見ているうちに、唇に血色がなくなつて、目に涙がいつぱいたまつてきた。

「初五郎。」と取り調べ役が呼んだ。
 ようよう六歳になる末子の初五郎は、これも黙つて役人の顔を見たが、

より「マルチリウム」という洋語も知らず、また当時の辞書には献身という訳語もなかったので、人間の精神に、老若男女の別なく、罪人太刀 兵衛の娘に現れたような作用があることを、知らなかったのは無理もない。

□(1) 線 a のカタカナを漢字に直して書きなさい。

□(2) 線 ①「父の身代わりになつて死にたい」とありますが、父の身代わりとなる以外に長太郎が「死にたい」と思う理由を述べている部分を、本文中から書き抜いて答えなさい。

□(3) 線 ②「書い」の活用形として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 未然形 イ 連体形
 ウ 終止形 エ 連体形

□(4) 線 ③「とくは黙つて顔を見ているうちに、唇に血色がなくなつて、目に涙がいつぱいたまつてきた」とありますが、ここにはとくのどんな気持ちが表示されていますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 処刑される父のことを思うと、わが身をすててもよいけれど、母と別れることだけはつらくてしかたのない気持ち。

イ 日頃から姉のいちは特に目をかけられているので、いちの言う通りに死ぬことができるのはうれしい気持ち。

ウ 姉の思いがけない考えのために命を失うことになったが、いざ現実のことになると怖くてしかたのない気持ち。

エ どうすれば自分だけ逃げられるかを考えていたが、幼い身ではその方法も思い浮かばず、悔しくてしかたのない気持ち。

□(5) 線 ④「かぶりを振つた」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 頭を少ししかけて、疑問の気持ちを表す。

「おまえはどうじゃ、死ぬるのか。」と問われて、活発に **④** かぶりを振つた。書院の人々は覚え、それを見てほへんだ。

この時佐佐が書院の敷居際まで進み出て「いち。」と呼んだ。
 「はい。」

「おまえの申し立てにはうそはあるまいな。もし少しでも申したことにまちがあつて、人に教えられたり、相談をしたりしたのなら、今すぐに申せ。隠して申さぬと、そこに並べてある道具で、誠のことを申すまで責めさせるぞ。」**⑤** 佐佐は責め道具のある方角を指さした。

いちはずされた方角をひと目見て、少しもたゆたわずに、「いえ、申したことにまちがいはございません。」と言いつつ、**⑥** その目は冷ややかに、その言葉は静かであつた。

「そんなら今一つおまえに聞くが、身代わりをお聞き届けになると、おまえたちはすぐに殺されるぞよ。父の顔を見ることはできぬが、それでもいいか。」

「よろしゅうございます。」と、同じような、冷やかな調子で答えたが、少し間をおいて、何か心に浮かんだらしく、**⑦** お上のことにはまちがいはございません。」と言いつつ、

⑧ 佐佐の顔には、不意打ちにあつたような、驚愕の色が見えたが、それはすぐに消えて、険しくなつた目が、いちの面に注がれた。憎悪を帯びた驚異の目でも言おうか。 **※** 佐佐は何も言わなかつた。

次に佐佐は何やら取り調べ役にささやいたが、まもなく取り調べ役が町年寄に、「御用が済んだから、引き取れ。」と言いつつ、**⑨** 白州を下がる子どもを見送つて、佐佐は太田と稲垣とに向いて「**⑩** 生い先の恐ろしい者でござりますな。」と言つた。心のうちには、**⑪** 哀れな孝行娘の影も残らず、**⑫** 人に教唆せられた、**a** オロかな子どもの影も残らず、ただ氷のように、**⑬** 刃のように鋭い、いちの最後の言葉の最後の一句が反響しているのである。元文頃の徳川家の役人は、もと

□(6) 線 ⑤「書院の人々は覚え、それを見てほへんだ」とありますが、その理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 最も幼い初五郎は、本当は死にたくないという意思表示をしたが、そこには無邪気な本心が表れていたから。

イ 初五郎は、幼くて事情がよくわからないままに、姉のいちよりもさらに強く父を助けてほしいと嘆願したから。

ウ 幼い初五郎は、自分が死にたいと言つたのは本心ではなく、姉に促されたからであると正直に申し述べたから。

エ 年少の初五郎は、自分さえ助ければ、父や姉たちがどのようにならうと関知しないと思つているから。

□(7) 線 ⑥「佐佐は責め道具のある方角を指さした」とありますが、それを見たいちの心情の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 見たこともない恐ろしい責め道具を見て、思わず身がすくみ、声もあげられない心情。

イ 恐ろしい責め道具を見せられて、幼い兄弟たちが責められることを思い、耐えられない心情。

ウ たとえ恐ろしい責め道具で責められても、自分の申し立ては揺るがないという一途な心情。

エ これほどのひどい仕打ちをする奉行に対して、子ども心ながら激しく憎み反発する心情。

□(8) 線 ⑦「その目は冷やかで、その言葉は静かであつた」とありますが、このときのいちの心情の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

